

「 身近に感じた土砂災害 」

東京都 目黒区立不動小学校 3年 豊岡 楓

学校で、防災について書いてある「東京マイ・タイムライン」をもらいました。土砂災害なんて遠くの話だろうと思いながら東京都の「土砂災害警戒区域等マップ」を調べてみると、家から歩いて10分のところにあぶない場所があったのでおどろきました。

行ってみると、大きなたて物のうらに急なしゃ面があり、そこをコンクリートでかためてありました。ところどころメロンみたいなヒビが入っていたり、大きなシートもかかっていました。

その近くにも、家よりも高いがけがありました。がけに草が生えていたので目立たないのですが、家のすぐうらに金あみでできたフェンスがあって、そのすぐ向こうががけになっていたので、近すぎてドキドキしてしまいました。

東京都が出しているパンフレットによると、土砂災害から安全にげるためには、三つのことが大切だそうです。一つ目は「土砂災害のおそれのあるか所を知る」。二つ目は「ひなんばしょ・にげ道を知る」。さい後は「きけんなときに出されるじょうほうを知る」です。

さい近は急に大っぷの雨がふりだして、しばらくふりつづけるゲリラごう雨も発生しています。

先日も急な大雨とカミナリで、学校から帰れなくなつたことがありました。その時はカミナリが落ちて、学校の電話もつながらなくなりました。通学路によつては、ひざ下まで水が流れている場所もあつたそうです。

このように、ごう雨が始まつてしまふと外へ出てい動るのはむづかしいです。また、スマホを持っていても、つながらなくなるかもしれません。

何でもない日に、家のまわりや通学路のあぶない場所をかくにんしたり、災害にそなえてじゅんびしておくことで、土砂災害が起きてもぎせいをへらせるのではないかと思いました。ふ通の住たくがいに住んでいても、土砂災害は身近で起こるかもしれないと思いました。